

三鷹市立図書館協議会 第16期答申

「市民に親しまれ、市民と共に歩む図書館をめざして」

－三鷹市立南部図書館の整備及び運営と
これからの図書館サービスについて－

平成25年6月27日

三鷹市立三鷹図書館長
宇山陽子様

三鷹市立図書館協議会

会長	瀬島健二郎
副会長	高瀬香織
委員	福田豊
委員	堀江朋子
委員	横道孝二
委員	鎌田広美(平成24年5月まで)
委員	渡部祐子(平成24年6月から)
委員	小野桂子
委員	内藤千津
委員	堀玲子
委員	磯みゆき
委員	打木晶子
委員	内藤晴美

(順不同)

目次

はじめに	・・・ 1
1 三鷹市立南部図書館の整備及び運営について	・・・ 2
(1) 市民から親しまれる図書館にするために	・・・ 2
ア 愛称の公募	
イ 利用者懇談会の開催と活用	
(2) 運営について	・・・ 3
(3) 公益財団法人アジア・アフリカ文化財団との協働事業 について	・・・ 3
ア 郭沫若文庫等貴重資料の展示	
イ 講座・イベント開催	
(4) 館内レイアウト・書架配置等について	・・・ 3
2 これからの三鷹市立図書館のあり方について	・・・ 4
(1) 図書館運営、サービスについて	・・・ 4
ア 図書館サービスの基本	
イ 基本的な運営の方針	
ウ 休館日の設定について	
エ 開館時間について	
オ 図書館ネットワークについて	
(ア) 移動図書館サービス	
(イ) コミュニティ・センター図書室との連携	
(ウ) その他	
(2) 市民との協働について	・・・ 6
ア 協働の仕組みづくり	
イ ボランティアの活動	
おわりに	・・・ 8

はじめに

三鷹市立南部図書館（以下「南部図書館」という。）は、三鷹市が約 20 年ぶりに開館する、市の南部地域（主に新川・中原地区）をサービス対象とする三鷹市立図書館の分館です。

平成 24 年 3 月に策定された『三鷹市立南部図書館（仮称）基本プラン』（以下「基本プラン」という。）では、「公益財団法人アジア・アフリカ文化財団との協働という特色を十分に生かすとともに、乳幼児から高齢者までに親しまれ、市民の知的探求と創造的な活動を支える情報拠点として豊かな地域社会の形成に貢献する図書館を目指して、市立図書館全体の未来を拓く取り組みとして進めていく」という基本的な考え方が示されています。

この基本プランの検討と並行して、南部図書館は平成 23 年度から設計に着手し、平成 25 年 11 月に開館する予定で準備が進んでいます。

そこで、三鷹市立図書館協議会（第 16 期、任期：平成 23 年 7 月～平成 25 年 6 月）（以下「協議会」という。）では、基本プランの考え方の一層の具体化を進めるため、実施設計に並行して館内レイアウトや書架配置等に関する検討を行うとともに、南部図書館の開館に向けて開館準備及び開館後の運営について検討・協議を進めてきました。

南部図書館の実施設計に関わる部分については、これまでの協議会での検討の趣旨が反映されてきました。そこで、今回の答申では、今後の南部図書館の開館準備や開館後の運営に関する見解を取りまとめました。

三鷹市立図書館は、これまで貸し出しを中心とする資料提供サービスを充実・発展させてきました。その上で、地域の情報拠点としての図書館サービスが充実するように努力しています。

私たち協議会は、南部図書館の開館をきっかけに三鷹市立図書館がこれまで取り組んできたサービスが、一層充実することを望んでいます。また、公益財団法人アジア・アフリカ文化財団と協働して南部図書館を整備・運営する試みは、地域社会の住民や団体との新しい、強い結びつきを築くもので、この関係を発展させていくことも重要な挑戦になると考えます。

南部図書館が開館し活動を始め、順調に運営されることで三鷹市立図書館のサービスがさらに充実し、市民に親しまれ、市民と共に歩む図書館となるように願っています。

1 三鷹市立南部図書館の整備及び運営について

『三鷹市立南部図書館（仮称）基本プラン』では、南部図書館のコンセプトを次のようにまとめています。

南部図書館は、次の三つの柱により、幅広い世代の多様なニーズに対応する魅力ある図書館をめざします。

- (1) アジア・アフリカへの関心を深め交流を広げる図書館
- (2) 地域の多様なニーズに応える情報拠点としての図書館
- (3) 魅力ある「場所」としての図書館

これまでの三鷹市立図書館のサービスは、中心館の三鷹市立三鷹図書館（以下「本館」という。）では資料と施設の充実から、貸出サービスだけでなく様々な相談を受け付け、回答するなどしています。しかし、これまでの分館は各種の制約から貸出サービスに重点を置かざるを得ない状態にあります。南部図書館は分館という制約はあるものの、資料と設備を充実することにより、場所としての魅力を高め、地域の情報拠点としての役割を果たすよう成長していったらいいと考えます。

それに加えて、次の課題に取り組まれることを要望します。

(1) 市民から親しまれる図書館にするために

ア 愛称の公募

新しくできる南部図書館を市民に広く知っていただき、また親近感を持っていただくことを目的に、親しみやすく、かつ、南部図書館の特色に合う愛称を公募することが望ましいと思われまます。

イ 利用者懇談会の開催と活用

南部図書館は、他の図書館には無い新しい試みがあります。そこで、南部図書館で図書館と市民との懇談会などを行うことで、きめ細かく市民の声を吸い上げる仕組みができることを望みます。さらには、南部図書館での開催をきっかけに、他館にもこうした取り組みが広がっていくことを望みます。

また、南部図書館の開館に注目が集まり、図書館に協力したいと考える市民が多くなると思われるので、図書館の応援団が結成され、市民が力を発揮できるようになることを望みます。

(2) 運営について

南部図書館の開館時間については、閲覧席を多く設けることで、長時間利用出来る環境が整った「滞在型」の図書館になるという特色を生かすために、夜間開館を検討する必要があります。

また、休館日については三鷹市立図書館全体の課題として後述します。

(3) 公益財団法人アジア・アフリカ文化財団との協働事業について

ア 郭沫若文庫等貴重資料の展示

中国の近代文学・歴史学の先駆者である郭沫若氏の資料を国内で最も多く所蔵するアジア・アフリカ図書館の協力で、その展示を館内で行うことは、南部図書館の大きな特色になります。郭沫若文庫をはじめとする貴重な資料を公開し、市民に愛着を持っていただくためのPRが望まれます。

さらに、一般市民の方に分かりやすく伝えるために、音声ガイドや映像資料の設置、また他部署との連携によるボランティアガイドの養成を検討することが必要と考えます。

イ 講座・イベント開催

南部図書館がアジア・アフリカ語学院と同一施設内にあるという特色を生かし、同語学院の留学生の方々に協力していただく取り組みを企画していくことが望まれます。市民と留学生が交流できる場を継続して設けることは、国際交流の観点からも重要と考えます。

(4) 館内レイアウト・書架配置等について

南部図書館は、魅力ある「場所」としての図書館の役割が果たせるよう、館内レイアウトや書架配置等が計画されています。館内レイアウトでは、一般図書スペースの静かな環境と児童図書スペースの比較的自由な利用が両立できるように、両スペースの間に緩衝ゾーンともなるエントランスホール、ブラウジングコーナー、カウンター、一般や児童向けの展示コーナー等が配置される計画です。

また、図書館の中心軸に沿って主要動線を南北に通し、この動線の両側に書架や閲覧席が配置される計画です。メイン通路となる主要動線に沿ってサインを設置することで、利用者が図書資料を探しやすく、また、図書館のさまざまな設備を活用しやすくなると思われれます。

このプランニングは、乳幼児から高齢者に到るまでの幅広い年齢層の利用者が、お互いに快適に図書館を利用できる環境が用意される計画です。

これにより、おはなしの部屋で親子がのびのびと絵本を楽しむ取り組みや、子どもたちに本にふれることの楽しさを伝える展示や排架に工夫

して取り組むことが可能になると考えます。

2 これからの三鷹市立図書館のあり方について

南部図書館の開館により、三鷹市立図書館が三鷹市全域へサービスする際のネットワーク基盤が整います。また、開館をきっかけとして、三鷹市立図書館のあり方や市民との関わりにも新たな段階が始まることにより、次のような取り組みを進めることが大切です。

(1) 図書館運営、サービスについて

ア 図書館サービスの基本

図書館サービスは、資料や情報を利用者に提供することで果たされますが、その際に図書館職員が利用者を支援している点が重要です。その役割は、図書館が扱う資料や情報が図書や雑誌などの出版物からインターネット情報や電子書籍になっても変わりません。例え、ある分野の専門家であっても、他の分野では素人ですから、必要な資料や情報を探す場合には、資料の専門家である図書館職員の支援が必要な場合があります。そのため、図書館職員は、その図書館が所蔵する資料を熟知し、利用者に問われたら的確に資料・情報を案内できることが必要です。

利用者からの問い合わせを受けるのは資料相談の窓口であり、窓口を設置し、常に職員が配置されていて、利用者からの質問を受け付ける体制が整っていることが大切です。受け付けた相談には、図書館職員が持つ能力を結集して解決に当たり、解決が困難な場合には東京都立図書館や国立国会図書館に問い合わせることが望まれます。こうした努力により、多くの相談事例は解決し、利用者の満足を得ることができると考えられます。

資料相談業務（レファレンスサービス）の重要性は、第13期提言で既にふれていますが、再度、確認しました。

この資料相談業務の重要性から、多くの図書館では基本的な統計調査の対象に資料相談件数が挙げられていますが、三鷹市立図書館では残念ながら集計を行っていません。利用者から受け付ける資料や情報についての様々な質問に、現に回答しているわけですから、その実績をきちんと記録する必要があります。そのことが、図書館サービスの現状を正確に把握することに繋がります。

資料相談件数は一つの例で、図書館の現状を正確に把握するために何が必要か、検討することも大切と考えます。

イ 基本的な運営の方針

図書館の運営に当たっては基本的な運営の方針を定め、指標を設定し、目標を設け、事業計画を決めることが不可欠です。そして、その実施状況について点検、評価することが求められています。また、これに関する情報を積極的に公表するよう努めなければならないとされています。

三鷹市立図書館では毎年、図書館事業計画と事業報告を『三鷹市立図書館事業概要』に公表していますが、十分な内容とは言えません。図書館の活動を市民に報告し、どういう方向に向けて努力するかを公開することは、市民に図書館活動への理解を得る上で大変望ましいことと考えられますので、その準備を今後始めることが大切です。

ウ 休館日の設定について

現在、下連雀図書館が月曜日も開館していますが、三鷹市立図書館の他の館が全て月曜日休館となっている中で、月曜日に図書館の利用を希望する人には大変便利です。また、将来下連雀図書館が廃止になることを考えると、休館日をずらして設定することは、サービス向上のために検討されるべきです。

エ 開館時間について

現在、三鷹市立図書館の分館は三鷹市立三鷹駅前図書館を除き、午後5時に閉館しています。本館も、土・日曜日、祝日・休日は午後5時で閉館しています。市民のニーズに応じてより柔軟に変更することも必要と思われれます。

夜間開館を検討する際には、現状でも夜間開館を実施しているコミュニティ・センター図書室の利用状況を調査する等、市民のニーズの把握が必要と思われれます。また、夏季などの日が長い時期に限定して開館時間を延長するのは、一つの考え方かと思われれます。

オ 図書館ネットワークについて

(ア) 移動図書館サービス

三鷹市立図書館の移動図書館「ひまわり号」は、「図書館空白地域へ本を届ける。」という目的のもと、市内13箇所の巡回ステーションを2週間に一度の割合で、巡回しています。南部図書館が開館することにより、本館及び5つの分館が三鷹市内に配置されることになり、「図書館空白地域」がかなり解消されることから、巡回ステーションの配置見直しを行う必要があります。

その見直しは、南部図書館の開館後に一定期間が経過してから行うのが適切と考えます。

南部図書館開館後の巡回ステーションの配置変更にあたっては、以下の5つの理由から、従来型のサービスではなく移動図書館サービス

そのものの見直しを行い、新たな付加価値を持たせることが適切と思います。そのためには、子育て支援施設、公園、星と森と絵本の家なども新たな巡回ステーションの候補に加えて検討することが望ましいと考えます。

第1に、滞在型とすることで、巡回先で紙芝居や読み聞かせを行う等、新たなサービスを提供できると思われれます。

第2に、子ども連れの方にとっては、固定施設の図書館は子どもが騒ぐために利用しにくいと感ずることがあります。しかし、戸外である移動図書館は気兼ねなく利用でき、そこで出会った方と会話をすることができるといった憩いの場のような役割をすでに担っています。

これまで、移動図書館は、本館や分館などの固定施設の利用が困難な地域に散在する来館利用が困難な読者層に対応するためのサービスを提供してきました。しかし、図書館整備が進んできた現状では、高齢者や子育て世代へターゲットを絞ることも一つの考え方です。その意味で、巡回先に子育て支援施設を追加することも検討の対象になると考えます。

第3に、小回りの利く車両にし、巡回先を柔軟に検討できるようにすることを望みます。

第4に、広報車的な役割を持たせる等、移動図書館という言葉にとらわれず、よりフレキシブルな活用方法を考える必要があると思ひます。

第5に、車体に広告を載せて運営費に充てることも考えられます。

(イ) コミュニティ・センター図書室との連携

コミュニティ・センター図書室を図書館ネットワークに取り込み、地域に図書館サービスを受けられる拠点を増やすことで、現状よりきめ細かな図書館サービスが提供されるようになることを望みます。

(ウ) その他

三鷹市立図書館から学校図書館や幼稚園など、地域に対する一層の働きかけが行われることを望みます。

また、現在の社会教育会館には下連雀図書館が併設されていますが、新しくできる社会教育会館の施設には、図書館設置の予定はありません。生涯学習の場には本は必須ですので、何らかのかたちで図書館サービスの提供を検討されることを望みます。

(2) 市民との協働について

市民が三鷹市立図書館の運営に関して考え、意見を述べ、図書館の活動を楽しみながら応援できるような仕組みづくりを進めてほしいと思ひ

ます。多くの市民がいろいろなかたちで三鷹市立図書館の活動に参加することによって、地域を支える情報拠点としての図書館機能の充実が図れるとともに、市民の生涯学習活動の成果をまちづくりに生かし、豊かなコミュニティをつくりだすことにつながると考えます。

ア 協働の仕組みづくり

他地域の事例も参考とし、よいかたちでボランティアが参加できる仕組みをつくることが望まれます。また、古い地域資料（古文書等）の収集、保存において、市民と協力して取り組んでいくことが大切かと思えます。

イ ボランティアの活動

現在は、児童サービスと障がい者サービスにおいて多く受け入れています。また、宅配サービス、介護施設等との連携、本や図書館の案内等、高齢者向けのボランティアの活用もあるとよいと思います。

また、三鷹市には杏林大学病院があるという特色を生かし、地域との連携という観点からも、入院されている子どもたちへ絵本を届ける等の取り組みができるのではないかと思います。

その他にも、例えば本の修理は、製本についても学べるなど面白いボランティアなので、専門家を招いた研修で養成し、活動していただくことが考えられます。

おわりに

三鷹市立図書館は昭和 39 (1964) 年 10 月 1 日に開館しました。来年で開館 50 周年を迎えます。この間、三鷹市立図書館は市民へのサービス提供に努め、いよいよ今年 11 月には市民待望の南部図書館が開館します。これにより、全ての市民にそれほどの不便なく図書館に来館し、利用いただくことが可能になるものと考えられます。

また、図書館サービスの内容も多く、多くの図書や雑誌を提供し、貸し出して利用いただくことに力を注ぐだけでなく、市民の皆様や団体・機関からの様々な相談を気軽にお受けし、回答することへと広がってきました。

南部図書館の開館を大きなステップとして、市民に資料・情報を提供し、市民からの様々な問合せに回答するサービスをさらに充実・発展させてください。さらに、公益財団法人アジア・アフリカ文化財団と協働する試みが多くの市民の皆様歓迎されることで、三鷹の地から国際的な交流が広まり、定着していくことを望んでいます。